

環境中期計画「ブーア(Blue Earth 21)」を策定しました。

環境、社会、経済面において企業責任を果たしつつ、持続可能な発展を目指すために、当社は、2002年度環境中期計画「ブーア21」を策定しました。

「ブーア21」では、「環境中期計画スローガン」を掲げ、「6つの挑戦」を行います。具体的には、この挑戦を重点9テーマにブレイクダウンすることにより、部門ごとの具体的な目標を定め、2004年度までの達成に向けて取り組んでいきます。

環境中期計画スローガン 環境で選ばれるコスモ石油

真の環境先進企業を目指す
企業市民として社会的責任を果たす
環境保全と経済性の両立

6つの挑戦

- 1 グリーン製品への挑戦
環境への負荷を最小限にした
製品の開発・販売
- 2 グリーンファクトリーへの挑戦
CO₂や廃棄物の排出を最小限に抑える
「ゼロエミッション」への取り組み
- 3 グリーン物流・販売への挑戦
省資源化と省エネルギー化の推進
- 4 新エネルギーへの挑戦
燃料電池やGTL(天然ガス液化技術)
などへの取り組み
- 5 グリーンオフィスへの挑戦
3R(リデュース、リユース、リサイクル)
への取り組み
- 6 環境コミュニケーションへの挑戦
全従業員の環境マインドの醸成
ステークホルダーとの協調

* 環境貢献活動の考え方

コスモ石油は次世代に豊かな社会を繋いで行く責務、即ち持続的発展を支える責務を自覚し、環境貢献活動を実施及び支援していきます。

国内外の「環境の改善」と「環境保全活動」
次世代を担う子供への

環境中期計画「ブーア(Blue Earth 21)」

項目
温暖化防止 各事業部門におけるエネルギー削減活動の推進 京都メカニズムや新エネルギーへの取り組み
汚染物質排出削減 法規制を下回る自主管理レベルでの 大気汚染物質・水質汚濁物質の排出抑制 VOC自主規制への取り組み 産業廃棄物のさらなる削減
土壌環境対応 サイト別の土壌環境の実態把握と対応 SS(サービスステーション)土壌環境の診断と汚染の未然防止の推進
省資源 3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進による 一般廃棄物の削減
製品の環境負荷低減 環境負荷の少ない石油製品の供給
グリーン購入 グリーン購入対象の拡大
研究開発 石油本業分野での技術開発 環境分野での技術開発 新エネルギー分野での技術開発
環境貢献プロジェクト 当社基本方針*に基づく継続的なプロジェクトの展開
環境経営推進体制 環境マネジメントシステムの継続的改善の推進 様々なステークホルダーへのコミュニケーション活動の充実

	中期目標(2004年度)
省エネルギー	製油所におけるエネルギー消費原単位 9.2%削減の達成(1990年比) 物流部門における燃料消費量のさらなる削減 オフィスの省エネルギー対策の推進
京都メカニズム	京都メカニズムの利用検討
新エネルギー	自然エネルギー発電(風力、太陽光)システムの導入検討
大気汚染防止	製油所のNOx、SOx、ばいじんの現状排出レベルの維持 セルフSS計量機へのVOC削減装置の設置検討
水質汚濁防止	製油所のCOD排出量の現状排出レベルの維持
産業廃棄物の削減	製油所の最終処分量 3年間(2002~2004年)の年平均削減率81%(1990年比)達成
事業所	事業所別土壌調査・対応の実施
SS	新管理基準による未然防止策の推進 SS施設の自主点検・対応の実施
紙	紙購入量 40%削減(2000年比)
日用品	分別回収・再資源化による一般廃棄物削減の推進
水	SSにおける排水リサイクル装置導入検討
軽油対応	硫黄分50ppm規制に対応した軽油の供給
ガンリン対応	新長期規制製品供給体制の確立
事務用品	グリーン購入比率 80%(購入金額ベース)
その他	資機材(建築資材等) 副資材(触媒、薬品等)および消耗品(SSコスチューム等)のグリーン購入の推進
環境負荷低減	高性能脱硫触媒開発
廃棄物削減	触媒使用量の削減・再利用技術の開発、製油所余剰汚泥削減技術の開発
土壌対応	土壌中の油分評価技術の開発
環境ビジネス対応	VOC等ペーパー吸着・回収に関わる技術開発
新エネルギー実証化	燃料電池システム、天然ガス液体燃料化(GTL)技術開発
環境保全技術協力	環境関連技術の海外移転実施
エコカード・プロジェクト	地球温暖化防止、自然環境保全、環境教育等のプロジェクトの実施及び支援
社会貢献	社会貢献活動の積極的展開
人材の育成	環境意識共有化の体制整備の推進
コミュニケーション	ステークホルダー別の効果的な環境情報開示の推進